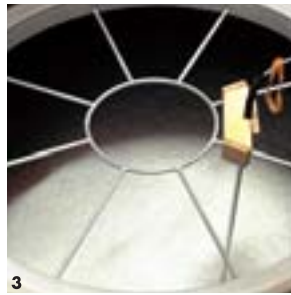


女だから本間家を 継がなくてもいいと 思ったことはない。



1 お客さんから他の酒蔵の情報も聞けるので、なるべく時間を見つけて売店に立つ
2 暑寒別岳の伏流水は創業以来変わらぬ命の水だ 3 新酒の仕込み。芳しい香りが蔵の中に満ちている

Sakura Honma



その水は今もこんこんと湧き出て、命の水を作り続けているのだ。

**商売人の血は初代から
まっすぐな性格は祖母から**

櫻さんに本間泰蔵についてどう思うか聞いてみた。「よく聞かれるもので、いろいろ調べてはいるのですが、興味ということでは祖母の方がありますね。二代目の祖父が早くに亡くなったので、本間家を実質切り盛りしなくてはならなくて。陰では女帝とか呼ばれてたみたいですね」。そんな祖母を見て育ったせいか、女だから本間家を継がなくてもいいと思ったこともないそうだ。「姉と二人姉妹なので、男の子がいなくて大変ねと両親がよく言われてましたけど、不思議でしたね。男でも女でも仕事に責任を持つことに差がないのと同じだと思うのですけど。だからと言って私が継ぎますと声に出して言うのはいやで、曖昧にしてみましたけど(笑)」

近頃、親戚からは祖母に似てきたと言われるそうだ。本人の分析では「意地っ張りというか、強情なところじゃないですかね」。しかし、企画室長としての発想は

柔軟だ。冬は酒米でいっぱいになる米蔵も夏は空っぽになる。ならばと、古い写真や昔のてぬぐいなどを飾るギャラリーとして活用をはじめた。酒蔵でかくれんぼをしていた少女が、今はその酒蔵を切り盛りする商売人となった。まっすぐなまなざしの向こうに見ているであろう、古くて新しい酒蔵に期待したい。



増毛の歴史的建物群

レトロな街並みが往時の栄華を語る、増毛駅前。観光案内所としても利用されている1933年建築の老舗「多田商店」。駅前通の交差点に建つ「旧商家丸一本間家」は町が購入・復元し、2000年から一般公開している。やや西には国内最北の造り酒屋「国稀酒造」。さらに、高台に建つ増毛小学校は1936年建築で、今も子どもたちが元気に学び、文化催事などを通して多くの人に親しまれている。